

地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）事後評価調書

| | | | | | |
|-------|--------------|--------|--------------------|---------|-------------------|
| 都道府県名 | 三重県 | 事業実施主体 | 鈴鹿市 | 地域再生計画名 | 川と海が輝く魅力あふれる鈴鹿づくり |
| 計画期間 | 平成28年度～令和2年度 | 評価責任者 | 鈴鹿市上下水道事業管理者 富田 佳宏 | | |

| ①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況 | 指標 | | 基準値 | | 中間目標値 | | | 最終目標値 | | 事後評価 | 達成状況 | | 最終目標値の実現状況に関する評価 | |
|------------------------------|---|-------------------------|--|-----------|---------|---|---------|---------|------|---------|------|---|------------------|--|
| | 指標1 | 指標2 | 基準年度 | 基準年度 | 年度 | 中間実績 | 基準年度 | 最終実績 | 指標総数 | | 達成数 | | | |
| ①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況 | 指標1 | 汚水処理人口普及率 | 91.9% | H27 | 93.1% | H30 | 92.8% | 93.9% | R2 | 93.2% | × | 6 | 2 | 最終目標値を0.7%下回っているが、汚水処理人口普及率は増加傾向であり、整備の効果は表れている。 |
| | 指標2 | 主要河川（堀切川）の水質改善（環境基準BOD） | 1.8mg/L | H27 | 1.8mg/L | H30 | 3.0mg/L | 1.7mg/L | R2 | 5.4mg/L | × | | | 最終目標値より3.7mg/L悪い結果となり、気候の変動や降雨による有機物質の流出等の要因が考えられる。 |
| | 指標3 | 主要河川（鈴鹿川）の水質改善（環境基準BOD） | 0.5mg/L | H27 | 0.5mg/L | H30 | 0.6mg/L | 0.5mg/L | R2 | 0.8mg/L | × | | | 最終目標値より0.3mg/L悪い結果となり、気候の変動や降雨による有機物質の流出等の要因が考えられるが、環境基準値内である。 |
| | 指標4 | 主要河川（中ノ川）の水質改善（環境基準BOD） | 2.7mg/L | H27 | 2.5mg/L | H30 | 2.1mg/L | 2.3mg/L | R2 | 1.8mg/L | ○ | | | 最終目標値より0.5mg/L良い結果となり、最終目標を達成し、整備の効果は表れている。 |
| | 指標5 | 主要河川（金沢川）の水質改善（環境基準BOD） | 2.9mg/L | H27 | 2.8mg/L | H30 | 3.7mg/L | 2.7mg/L | R2 | 4.0mg/L | × | | | 最終目標値より1.3mg/L悪い結果となり、気候の変動や降雨による有機物質の流出等の要因が考えられるが、環境基準値内である。 |
| | 指標6 | 伊勢湾の水質改善（環境基準COD） | 3.7mg/L | H27 | 3.4mg/L | H30 | 3.4mg/L | 3.0mg/L | R2 | 2.4mg/L | ○ | | | 最終目標値より0.6mg/L良い結果となり、最終目標を達成し、整備の効果は表れている。 |
| ②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況 | 指標1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 指標2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ③事業の進捗状況 | 事業名 | | 整備量（その他の事業では取組内容） | | | 事業の進捗状況に関する評価 | | | | | | | | |
| 特別措置を適用して行う事業 | 公共下水道事業（整備延長） | | 計画 | 中間年度（H30） | 最終実績 | 計画整備延長23,930mに対し、20,749mを整備し、86.7%の進捗であった。整備延長が計画より下回った理由としては、市街地の密集地で道路幅が狭く、水道やガス等の埋設物を移設しながら、整備を進めたことで、時間を要したことや、地元との協議により、工事中の迂回路を確保することに時間を要したことが、要因として考えられる。 | | | | | | | | |
| | 個人設置型浄化槽整備事業（整備基数） | | 690 | 312 | 593 | 計画基数690基に対し、593基を整備し、85.94%の進捗であった。単独浄化槽からの転換及びびくみ取り便槽からの転換される基数について、社会情勢の影響により補助申請基数が伸びなかったこと、既存の汚水処理未普及解消につながらない家屋への要件の補助基数を除いたことから、整備量が当初の計画から下回るものとなった。 | | | | | | | | |
| その他の事業 | 海岸の保全 | | 海岸を観光資源等として魅力あるものに再生を図るため、美化活動を行うボランティア団体に支援を行い、市民や三重県等の関係機関と協力して若松海岸等の清掃を実施 | | | ボランティア活動により市民の環境美化意識が向上し、海岸ごみ清掃への関心も高まっている。 | | | | | | | | |
| | 漁港施設、海岸保全施設の維持管理事業 | | 自然の恵みを活用した産業の地産地消が進み、農林漁業関連施設の充実と担い手の育成により活力にあふれた鈴鹿となるため、鈴鹿漁港、白子漁港、若松漁港の漁港施設及び海岸保全施設の維持管理を行う。 | | | 海岸漂着ごみ及び河川流入ごみを回収し、漁港施設、海岸保全施設を自然豊かな状況に保っている。 | | | | | | | | |
| | 海と森林を結ぶ交流事業 | | 鈴鹿市漁業協同組合と鈴鹿森林組合が主体となり、「海と山が非常に密接な関係であることを理解しあい、力を合わせて環境保全に取組む」という趣旨に基づき、「海と森林を結ぶ交流事業」として植林活動や海岸清掃ボランティアを実施 | | | 森林と海の現状を把握し、環境保全の大切さについて理解を深めるための取組を通し、市民の環境への意識が高まっている。 | | | | | | | | |
| | 鈴鹿市水素社会ロードマップ | | 環境への負荷の少ない再生可能エネルギーの導入を進めることにより、快適で人が集まる元気な街をつくるため、その再生可能エネルギーの中でも、「究極のクリーンエネルギー」と言われる水素燃料にいち早く着目し、その普及に向けた取り組みを実施 | | | 来るべき水素社会へ向け、アクションプランに掲げる水素インフラ整備や普及啓発として、鈴鹿市役所に水素ステーションを設置し、公用車への燃料電池自動車の導入を実施した。また、水素関連産業の育成の必要性に鑑み、市内企業と連携した啓発イベントを実施している。 | | | | | | | | |
| 計画外で独自に実施した事業 | - | | - | | | - | | | | | | | | |
| ④評価方法 | 鈴鹿市上下水道局地域再生計画評価会議で意見を聴取し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。 | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤事後評価の公表方法 | 鈴鹿市上下水道局ホームページに掲載 | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥計画全体の総合評価 | 公共下水道の事業進捗状況の遅れ及び単独処理浄化槽又はくみ取り便槽からの転換による補助申請基数も減少していることから、汚水処理人口普及率は最終目標値に達していないが、増加傾向である。また、主要な河川の水質改善は、最終目標値を4河川のうち1河川で達し、3河川で達しておらず、伊勢湾の水質改善においては、最終目標値を達成している状況である。3河川で目標を達成できなかった理由として、気候の変動や降雨による有機物質の流出等の要因が大きいと考えられる。 | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦今後の方針等 | 公共下水道については事業の進捗状況の遅れによりKPIへの効果発現が不十分であった。今後は、社会資本整備総合交付金を活用して施設整備を進めていき、早期に効果が見込める路線を優先的に整備する。合併処理浄化槽については、循環型社会形成推進交付金を活用して、引き続き整備を進めていく。 | | | | | | | | | | | | | |